



2年学年だより

発行日：令和4年9月30日（金）

発行者：横浜市立南高等学校附属中学校

校長：遠藤 広樹

NO. 5

南高祭を終えて

校長代理 富樫 哲一

昨年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために中止となった南高祭が、9月9日（金）から9月11日（日）に行われました。残念ながら一般公開とはなりませんでしたが、保護者の皆様に皆さんの活躍の様子を見ていただくことができたことは、昨年の今頃の状況を思い返してみると、喜びもひとしおです。

南高祭は、「舞台の部」と「展示の部」があるのですが（実際は既に終了した体育祭も南高祭の一部で「体育祭の部」という扱いになります。）、附属中学校は主に「展示の部」で活躍しました。1年生は個人で作成した新聞を、「見学者にどうしたら伝わるか」という他者の視点に立ちながら、工夫した展示を行っていました。2年生と3年生はクラスごとにテーマを設定し、クイズや迷路など自由な発想をもとにした、見学した人が楽しめるだけでなく、何かを考えさせる興味深い展示をどのクラスでも行うことができました。展示の準備中に各教室の様子を見て回りますが、どのクラスも長丁場になる展示の準備に熱心に取り組んでおり、その南高祭にかける皆さんのエネルギーの大きさに本当に驚きましたし、心強く感じました。南高祭という、南高、南高附属中が持つ文化的エネルギーを結集して行われる、年に一度の「祭り」を十分に楽しむことができたのではないのでしょうか。

皆さんは他の多くの中学生とは違い、一足早く高校生の文化祭に参加することもできました。文化祭当日だけではなく、企画や準備などの「高校生が自らが主体となって作り上げる文化祭の出来上がる過程」を間近で見ることができたのは、とても貴重な体験となったことでしょう。

中学校の文化祭ではどうしても、学級担任などの教員の力を借りる機会がまだ多いのですが、高校の文化祭は違います。もちろん、担当教員と相談をすることもありますが、基本的には生徒会や実行委員会のメンバーが中心となって、主体的に企画や様々な調整を行い、当日の運営を進めていきます。大変な仕事ですが、その分、文化祭をやり遂げたときの充実感が大きいことは間違いありません。

皆さんは、今年度の南高祭において自分のクラス（または部活動）の活動をしていく中で何か思ったこと、感じたことはありますか。また、高校生の活躍する南高祭を実際に体験して何を感じましたか。

準備を含めるとかなりの期間、皆さんのエネルギーを多く注いだ行事ですので、是非とも、少しの時間で構いませんので、（授業と同じように）振り返りを行ってください。きっと、皆さんの今後の大きな成長のきっかけとなることでしょう。

南高祭の閉祭式でもお話しましたが、南高祭を含め、「祭り」はいつか終わってしまうものです。「祭り」の後には、以前の日常がまた繰り返されます。しかしながら、その日常を過ごす自分自身は「祭りの」前と全く同じではありません。令和4年度の南高祭の、楽しかったり、ドキドキしたりした（中には悲しかったり、辛かったりもあるかもしれませんが）思い出は、「令和4年度 南高祭」という小さな箱に入って、皆さんの胸の中に確実に存在し続けます。その思い出の小さな箱は、これからの人生の節目節目で、絶妙のタイミングで自ら開き、未来の皆さんのことを励ましたり、慰めたりしてくれることでしょう。

それぞれの彩りが際立った、すてきな南高彩（祭）をありがとう！

南高祭を振り返って



【南高祭 舞台・展示の部実行委員】

臨機応変に対応することなどの大切さを体験する機会となりました。もともと誰かが声をかけると、すぐに協力して行動できることが強みの2年生ですが、大きな一歩となりました。

「みんなが仲間に、みんなが楽しく、みんなで創ろう」という南高祭の基本精神のもと、初めてともいえる南高祭展示の部に取り組みました。2年生のテーマはEGGの学習を生かして「ものごとをさまざまな角度から見よう」というものでした。どのクラスも、企画の段階からそれを意識して話し合ってきた。2年生の展示の評判が良かったのも、終始テーマからぶれることがなかったからでしょう。協力することやクラスが団結することはもちろんですが、

委員会や部活動での参加を含めて、先を見通すこと、周りを見て



【1 組】迷路とクイズ「あなたが右なら私は左」

準備のときは、すれ違いやアクシデント、また時間がないことなどから、焦りはたくさんあったけれど、みんなで相談して作っていくのはとても楽しかった。段ボールとすずらんテープで区切られた教室は特別感もあっておもしろかった。

委員の人を中心に指示を出してくれて助かったし、最初はバラバラだったクラスも完成の時にはまとまってきたと思う。自分が働いているとき、「ありがとう」や「はい」みたいな返事がもらえてとてもうれしかった。最終的に800人弱の人が来てくれて、頑張って準備できて良かったと思った。この南高祭で、クラスの仲が深まったと思うし、みんなで準備する作業が何よりも楽しかった。

たった3か月ほどの準備期間でしたが、南高祭の規模には感動しました。代表者8人でたくさん会議をしましたが、教室の構成は強度と現実性を考え、机に段ボールを貼り合わせることにしました。難しかったことは問題作りでした。1組全意見を取り入れるというのは要約力が求められます。その中にある楽しさと言えば、世界のさまざまな問題を知ることができたと言うことです。例えばスローフードという概念を知らなかったのですが、この活動を通して自分の知識の新しい課題を知れてよかったです。

【2 組】タカニパーク「動物園の動物は幸せか」

実行委員として話し合いを進めたり、指示をすることが多かったけれど、動物園・ジャングル・裁判・廊下それぞれのグループが想像以上に高いクオリティで、とても良い展示にすることができたと思う。限られた時間の中で決めなければならないことが多く、不安になることもあったけれど、最後はクラス全員で協力して一つの作品を作り終えることができた。本番でも音声流れないことがあるなどトラブルもあったが、その場に応じて対応し、何とか乗り切ることができた。高校生の展示も見に行ったが、お客さんが楽しめる工夫をたくさんしていてすごいと思った。



ゼロから何かを作り上げるのはとっても大変だし、40人という人数がいると難しくなると思います。だけどみんなで協力して準備ができて良かったです。時間が足りない中で、互いに声を掛け合ってどんどん完成していくのがワクワクしました。普段はなかなか話すことのない人とも話せました。「みんなで作り上

げる」という文化祭ならではの空気感がそうさせたのだと思います。協力する場面、一人で頑張る場面、工夫が求められる場面、さまざまな状況がある中で、それぞれが能力を発揮できているな一と感じました。

【3 組】クイズ「海外と日本のマナーの違い、あなたはわかる？」



クラス全員でクイズを考えたり、すずらんテープの仕切りを作っていたりするなど、全員が頑張っている姿を見て、自分もやる気が出た。壁に貼る絵を描くときも、3組の個性の豊かさが表現されていると思った。自分のシフトでは大きな声でハキハキと話すことができた。自分の前の番だった志村はとても良かった。志村の得意な大きく通りやすい声を最大限活用できていたので、自分も頑張ろうという気にさせてくれた。今年の南高祭で学ん

だいくつもの学びを、来年、そしてその先も生かしていきたいと思った。

準備では、それぞれ担当が決まっても全員が協力してできたと思う。例えば教室装飾でまだすずらんテープが届いていないときは、廊下の国旗づくりなどを手伝い、すずらんテープが届いた後は小物担当の人がテープをつけるのを手伝ってくれて、準備がよりスムーズにできた。当たり前かも知れないけれど、それぞれが自分にできることを考えて準備していたのはとても良いと思った。3組の展示を見た方から「テーマがはっきりしていて、展示もそれに沿っていたし、ためになる展示で良かった」と言われたので成功できたと思う。

【4 組】トロッコアドベンチャー「24リーグ」

私は南高祭展示の部の2年代表だった。南高祭の任務が終わり、「頑張ってたよかった」と思っている。生徒や保護者、小さな子供たちがたくさん来て、楽しんでくれてうれしい気持ちでいっぱいだ。だが、ここに至るまでたくさん苦勞もした。夏休み前は居残りしなければ終わらないほどの仕事があった。また、クラスメートに伝えなければならないことも多く、大変だった。この経験を通して、自分は一人で全



部やろうとしていたことに気づき、分担することの大切さを知った。文化祭1週間前からは時間に追われての作業だった。しかし、このときは分担して複数のタスクを同時にこなしていった。クラスメートと協力できなかつたら、今楽しめていなかったと思う。本当に感謝している。

クラス展示を作る中で「技術の進化を伝える」と言うことを常に意識しながら行いました。クイズも歴史の教科書を参考にして道具や建物に関するものにしたり、背景も現在にはない縄文の技術を取り入れたりしました。当日のシフトでは集客と受け付け、トロッコを押す役割をしました。一緒に集客をした梅さんがとても一生懸命やっていて、私も精一杯やろうと思いました。受け付け、トロッコを押す仕事は、来たお客さんに楽しんでほしいという気持ちに自然となり、そのためにはどのようなことをすればよいのか、考えながらやりました。実際には、台本を見ながらでなく顔を上げ明るい声で受け付けをしたり、トロッコでは出発前にセリフを言ったりしました。改善したいところも見つかったので来年に生かしていきたいです。

【ひめのひとりごと】行事の醍醐味は、体験を通してどれだけ成長できるかなのだと、南高祭でのみなさんの活躍を見て実感しました。さあ、次はイングリッシュキャンプです。頑張ろう、10期生！！